

2025

SUPER GT
RACE REPORT

Rd.1

4.12 [sat] - 13 [sun]

[place]

岡山国際サーキット（岡山県美作市）

[weather]

[sat] 晴れのち曇り / [sun] 雨のち曇り

[spectators]

23,200人 ([sat] 8,700人 / [sun] 14,500人)

OKAYAMA INTERNATIONAL CIRCUIT

Rd.1 OKAYAMA >>>> APR 12-13

Rd.2 FUJI >>>>>>>> MAY 03-04

Rd.3 SEPANG >>>>> JUN 27-28

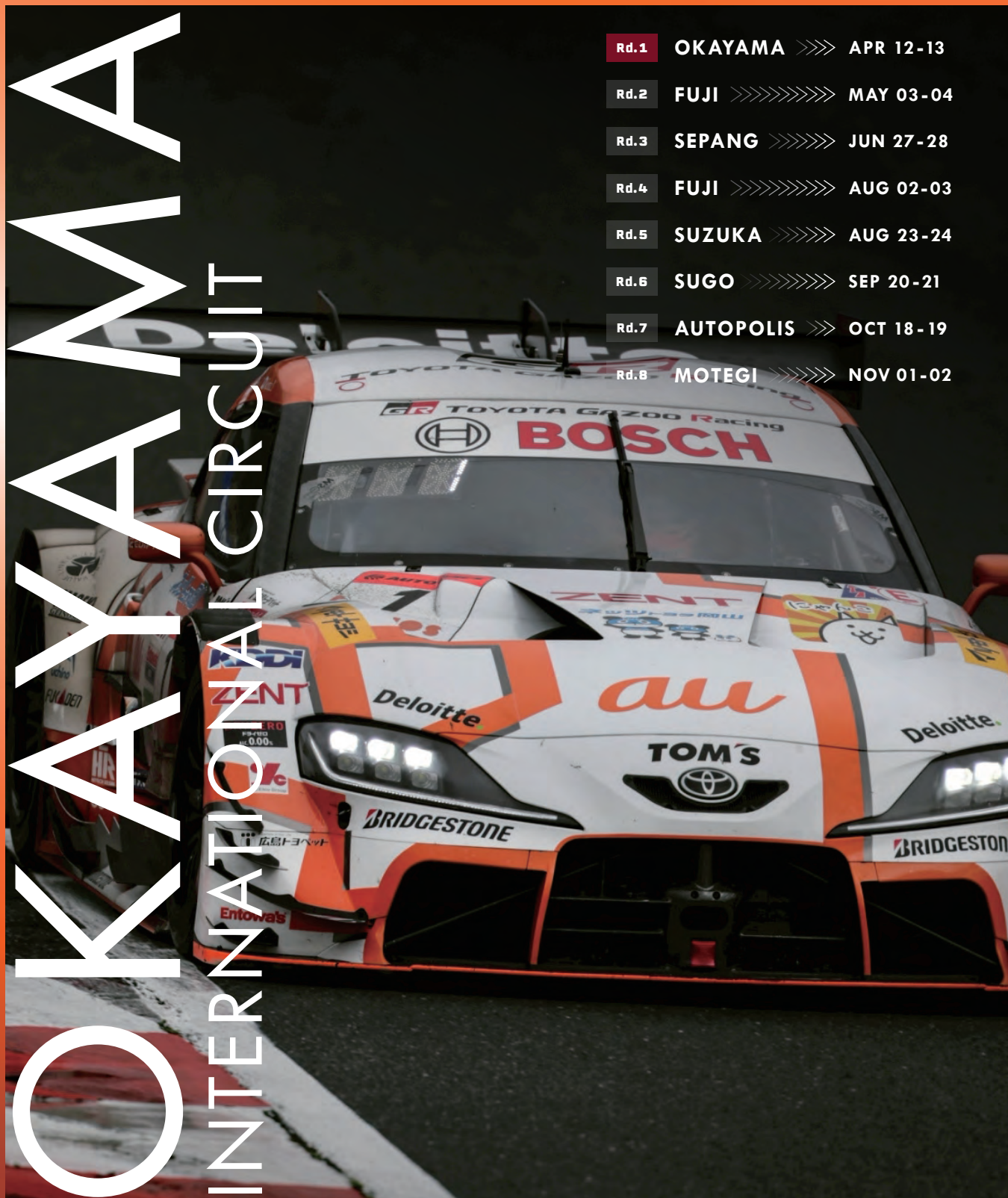
Rd.4 FUJI >>>>>>>> AUG 02-03

Rd.5 SUZUKA >>>>> AUG 23-24

Rd.6 SUGO >>>>>>>> SEP 20-21

Rd.7 AUTOPOLIS >>> OCT 18-19

Rd.8 MOTEGI >>>>> NOV 01-02



TOM'S



2025 AUTOBACS SUPER GT Round1 OKAYAMA GT 300km RACE が、4月12日（土）、13日（日）に岡山県の岡山国際サーキットで行われた。前人未到の3年連続チャンピオンを狙う#1 au TOM'S GR Supra（坪井翔 / 山下健太）は、予選でライバルの先行を許して2番手に終わるも、決勝ではレース序盤にトップを奪い、その後も安定した走りで他を圧倒し、シーズン初戦を制した。



1

SHO TSUBOI 坪井 翔
KENTA YAMASHITA 山下 健太

TGR TEAM au TOM'S

Rd.1 Result

Qualifying 2 位	>>	Driver Standings 1 位
Race 1 位		Team Standings 1 位

Qualifying 1	山下 : P1 / 1'17.157
Qualifying 2	坪井 : P2 / 1'16.516 << Record
Race	坪井 : 1'28.314
ファステストラップタイム	山下 : 1'19.845 <<< Fastest

QUALIFYING

天候：晴れのち曇り／気温：15℃／路面温度：23℃



ゼッケン1をつけて臨む2025年 僅差でポールポジションを逃すも、 決勝に向けて手応えを感じる。

昨シーズンは3勝を挙げる活躍でチャンピオンに輝いた1号車。2025年も坪井と山下のコンビは変わらず、チーム3連覇を目指して戦っていく。3月に行われた公式テストでは天候に恵まれずドライコンディションでのテストが十分にできなかったが、晴天となった予選日では公式練習から積極的に走り込み、マシンとタイヤの確認作業を行ったなか、坪井が1分17秒278でトップタイムを記録し、順当なスタートを切った。

今年の予選はノックアウト方式に戻り、Q1の上位10台がQ2へ進出し、ポールポジションをかけて争う。1号車は山下がQ1を担当して1分17秒157でトップ通過を果たすと、続くQ2では坪井がタイムアタックを実施。コースレコードを塗り替える1分16秒516をマーク。ポールポジションは確実かと思われたが、その後ろを走っていたライバルに0.075秒逆転され最終的に2番手で終わった。トップを狙っていただけに2人とも悔しい表情をみせていたが、決勝での逆転に自信をみせていた。

Race

天候：雨のち曇り／気温：13℃／路面温度：15℃

雨の影響で波乱の展開となるも 1号車は序盤からトップに浮上。 王者らしい力強い走りで優勝を飾る。



決勝日は一転して朝から雨が降り続け、ウェットコンディションでのレースとなった。安全を考慮してセーフティカーの先導のもとスタートされたが、追い越し禁止が解除された直後に後方で複数台が絡むアクシデントが発生して赤旗中断となった。

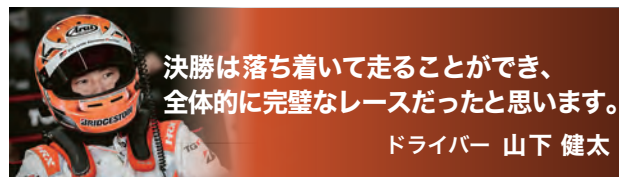
30分の中断を経て再開されると、スタート担当の坪井が11周目にライバルを抜いてトップに浮上。その後も安定したペースで周回を重ねた。後半に入った52周目にピットインし山下に交代すると、終盤になって天候が回復したこともあり63周目にドライタイヤに交換。チームもミスなく1号車を送り出し、後続との差を順調に広げていた。

そのまま優勝まで走り切るのみだったが、残り15周のところでコースオフ車両が発生したことでセーフティカーが導入され、それまで築いていた約20秒のリードがリセットされた。それでも、残り9周で再開されると山下がファステストラップを更新する勢いでライバルを圧倒し、シーズン開幕戦を制するトップチェッカーを受けた。

TOM'S



予選でポールポジションを獲れなかったのはものすごく悔しいです。僕たちは手堅く2周連続でタイムアタックをしました。1周だけに絞るなど、バリエーションがあったかもしれませんし、もう少し自分の走りでもとめられたこともあったと思います。とはいえ、決勝ではどんなコンディションになっても1号車は強いという自信がありました。ウェットコンディションになればチャンスがさらにあると思っていましたので、序盤にライバルを抜くことができました。そこからは10秒以上引き離すことができ、タイヤマネジメントもしながらうまくできたと思います。



予選では自分がQ1を担当しました。タイムアタックする周回数を絞るなど、もう少し坪井選手に伝えられていれば良かったと思うところはあります。自分のアタックも含めて、もう少しうまくやれていればトップを獲れた可能性があったと思います。決勝では坪井選手が10秒引き離した状態で僕に渡してくれたので、落ち着いて臨むことができました。終盤にセーフティカーが入り仕切り直しになりましたが、しっかり集中して走ることができました。全体的に完璧なレースだったと思います。



予選は非常に惜しかったです。ポールポジションを獲りたかったですけど、開幕戦をきちんと最前列からスタートできることを考えれば、全体の中では良いスタートだと思います。決勝はコンディションが変わっていく難しいレースでした。そのなかで自分たちのプランを突き通すのか、周りの動きに合わせるのかで悩む場面はありましたが、結果的に上手くできた完璧なレースだったと思います。それ以上にドライバー2人がミスなくスピードのある走りをしてくれましたし、2回ピットストップがあったなかでチームも素早く作業ができました。



3連覇を狙うシーズン開幕戦で盤石なレースをみせてくれました。予選でポールポジションを獲得できなかったことは残念でしたけど、決勝は本当に強くて良いレースでした。幸先の良いスタートを切ることができたと思います。最後のセーフティカーで展開が色々と変わりましたが、今回は37号車も力強い走りを見せてくれたので、今シーズンはこの2台でワンツーフィニッシュを達成できればと思います。次戦も、たくさんの応援をよろしくお願いいたします。

aw

KDDI

アヲキヨ

ZENT

GR TOYOTA
GAZOO
RacingTGR-DC
TGR Driver Challenge Program

TGR-D

BRIDGESTONE

Entowa's
NUSHDRY ZERO
ドライゼロ
ALC 0.00%Yc
Yi-Chiu Group

バンテリン

Happiness in Your Life
広島トヨペット

Deloitte.

MASEKI
GEINOSHA

Achilles

TAMIYA

QREX
QUANTUM RACING豊通テック
TEC

Valer

uchino

bryza

HRS
HYTECH RESINEDIFICE
CASIO

ベネッセ

MILNERA

JAPAN TRUCK SHOW
2026

BRIDE

FUKADEN

S&D
TAMA GROUP

HRX

PORTS.CO.JP

ThreeBond

Mizuno

ENKEI

both.

KVA

MECHANIC WEAR